



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2012～2013年度 RI会長 田中 作次
RIテーマ Peace Through Service 奉仕を通じて平和を

クラブテーマ「チ・カラを出そう」会長 太田政人

副会長 山本良一 幹事 石井司人

第1110回例会 2011.10.12(金)晴

司会:石井和郎君 指揮:小島 真君
ロータリーソング「それでこそロータリー」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 太田政人君



今月は米山月間ですので本日の例会場は米山梅吉記念館とさせていただきます、卓話は記念館運営委員の矢岸貞夫さんをお願いしております。

ダブル月間であります今月のもう一つは職業奉仕月間で、明日は地区職業奉仕セミナーが静岡市のグランシップで開催されます。出席義務者の職業奉仕委員長の宮澤さんとクラブ研修リーダー中村さんとクラブ会長の私の3人で出席してきます。職業奉仕月間ということで開業医と違った私の仕事を少しばかり紹介しようと思います。それは静岡県国民健康保険診療報酬審査委員という静岡県知事から委嘱された仕事です。任期は2年ですが今年で連続6期12年目になりました、仕事の内容ですがレセプト(患者さんが受けた診療について医療機関が保険者に請求する医療費の明細書)の審査です、毎月20日前後の4日間静岡市の国民健康保険会館に通います11月のタイ訪問はこの審査とかちあいますのでタイ訪問は失礼させていただきます。仕事の内容は12名の委員で総数約22万件1人当たりでは1万8千件のレセプトを見る計算になります。詳しいことは準公務員という立場で守秘義務がありますので詳しくは申せませんがレセプトに誤りがないか審査します。なかなか目を酷使するきつい仕事ですがこれも職業奉仕と思い定年の70歳まで勤めようと思っています。

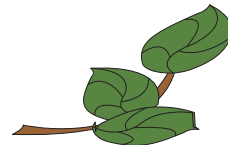
出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	30/36	83.33%	32/36	88.89%
今回	27/36	75.00%	会員総数	36名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

内田君、岡君、加藤君、小林君、根津君、服部君、山口(雅)君、山本(良)君、渡辺君



平素は記念館運営にご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本日は10月の米山月間にちなんで、米山記念館での例会となりました。場所の変更にもかかわらず、多くの会員にご参加いただきありがとうございます。

さて、記念館の運営は米山記念奨学会、近隣地区のご寄付、ご来館時のスマイル、クラブ周年事業寄付及び個人募金等のご支援により、その事業、運営資金がまかなわれています。その中で個人的な募金には、主に2つの自主的な善意募金がございます。

まず、全国一人100円募金運動です。「100円の細い糸が館と全国を結ぶ」を合い言葉に平成12年に始まった運動です。前年度末現在329口 1,910千円余の寄付額になりました。

もう一つは賛助会です。お一人年間3,000円(一口)のご寄附で賛助会員になって頂くものです。同じく499口 1,962千円余となり、共に大変貴重な事業財源となっております。

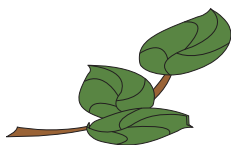
せせらぎ三島RCはじめ、静岡第2分区のほとんどのクラブは、記念館をお守りしているということもあり、全会員の賛助会登録となっています。ぜひ、他分区、他地区へおでかけの際には記念館のPRをしていただき、地元から記念館顕彰の輪を広げていただきますよう、ご支援よろしくお願ひ申し上げます。



スマイルボックス

山口辰哉君:イチローさんがセンター前ヒット、タシュアラがレフト前ヒット、続くカノーがセカンドゴロの間にワンナウト2・3塁になったにもかかわらずアレックスロドリゲスは3振。その前の回にもジーターが2塁打を打ってイチローさんが送ったにもかかわらず点が取れない。今どうなっているのか? 明日から被災地女川町に行ってきます。

澤田 稔君:ロータリーの原点である職業を通しての社会貢献が認められ園遊会に天皇陛下から招待を受けました。昨日県の産業振興功労の貢献で県知事賞を受賞しました。皆様のおかげです。



ROTARY NEWS

グローバル補助金でタイの農村に飲み水を

第5170地区(米国カリフォルニア州)は、ロータリー財団のグローバル補助金を利用して、職業研修チーム(VTT)をタイの遠隔地に派遣し、現地の農村の住民800人に安全な飲み水を提供しました。

地区財団活動資金(DDF)、参加クラブからの寄付、財団からの補助金を合わせた総額72,000ドルのこのプロジェクトは、8月に完了し、カリフォルニア州から2組のVTTが現地でプロジェクトを実施しただけでなく、タイから1組のチームがカリフォルニアを訪れ、小規模な水供給システムについて学びました。

サンノゼ・ロータリー・クラブ会員で第5170地区職業研修チーム委員長のロイ・ラッセルさんは、このプロジェクトについて、ロータリアンが自らの職業スキルを生かしながら文化交流を促進するものであると話します。「今回の水プロジェクトのように、目に見える結果を残せるプロジェクトは素晴らしく、プロジェクトの実施で培われた友情は今後も続いていくでしょう」

また、同地区のバスター・ガバナーであるロジャー・ハスラーさんはVTTについて、「ロータリアンとロータリアン以外の人々が経験と知識を生かして、協力しながら重要なプロジェクトを実施できる素晴らしい機会」と話します。

水関係の専門家であるラッセルさんは、ベトナム人の妻を持ち、現地の事情に精通していました。当初は、ラッセルさんが率いるチームが現地に井戸を掘る計画でしたが、調査チームが現地を訪問したところ、村ではこれまで何度も井戸を掘った経験があるものの、いずれも失敗に終わっていることを知りました。

ラッセルさんは当時のことを次のように振り返ります。「これまで井戸のプロジェクトがいずれも成功していないことが判明し、正直、自信をなくしてしまいました。しかし、ある村人との会話から、数マイル離れた場所に水のパイプラインがあることが分かり、プロジェクトの方向性が変わりました」そこで最初のVTTが、既存の本水道管から、村の丘の上に設置された貯水タンクまでパイプラインを引く作業を実施しました。そこから水は村に流れ、各家庭に届く仕組みです。各家庭は使用量を測るメーターを基に、毎月小額の料金を支払って、このシステムを維持しています。

その後、サワンカローク・ノース・ロータリー・クラブのチームメンバー4名がカリフォルニア州を訪れ、水道管建設、衛生、小規模な水システムの管理について学びました。8月には、プロジェクトを完了させるため、カリフォルニア州のもう1つのチームが現地を訪れましたが、本水道管の2つが破損してしまったため、数週間後にタイのチームが修復し、プロジェクトを完了させました。

ラッセルさんはプロジェクトについて、「村人は初めて、安全で信頼できる水の供給源を得ることができました。以前は乾季になると、水を別の場所から運ばなければなりませんでした。今は、家庭で蛇口をひねれば安全な水を利用できるようになり、より快適で健康な生活が送れるようになりました」